

# ○天草市地球温暖化防止実行計画 平成27年度実施の状況

## 1 温室効果ガス総排出量の比較

温室効果ガスの排出量は、基準年(平成18年度)と比較して22%増加しました。燃料の使用量は基準年と比べておおむね減少していますが、二酸化炭素の排出量が多い火力発電所の稼働が増えたことが、温室効果ガス排出量が増加した主な原因です。

	排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	削減率
基準年(平成18年度)排出量	4,123,925	
算定年(平成27年度)排出量	5,021,371	22%増加
目標(平成27年度)排出量	3,752,771	9%削減

## 2 電気・エネルギー使用量の比較

電気、重油の使用量は増加しましたが、重油を除く燃料の使用量については、基準年から削減することができました。特に、ガスやガソリン、軽油の使用量は、大幅に減少しています。

項目(単位)	基準年 (平成18年度)	算定年 (平成27年度)	増減	増減率
電気使用量(kWh)	7,294,634	7,542,294	247,660	3%
A重油使用量(ℓ)	121,576	138,750	17,174	14%
LPG使用量(m <sup>3</sup> )	13,558	10,779	-2,779	-20%
都市ガス使用量(m <sup>3</sup> )	94,308	63,665	-30,643	-32%
灯油使用量(ℓ)	6,741	5,769	-972	-14%
ガソリン使用量(ℓ)	189,753	124,594	-65,159	-34%
軽油使用量(ℓ)	17,929	5,579	-12,350	-69%

## 3 温室効果ガス総排出量増減の主な理由

【基準年と比較して増加した要因】

- ・電気使用に係る排出量の増加。

電気の使用に係る温室効果ガスの排出量は、九州電力で発電する際の温室効果ガス排出量に応じて計算されます。(電気使用量×電力会社の排出係数)

東日本大震災以降、温室効果ガスを多く排出する火力発電の割合が増加していることから、基準年の排出係数は0.375でしたが、平成27年度は0.509となり、本市の温室効果ガス総排出量の70%以上を占める電気使用に係る温室効果ガス排出量は約35%増加しました。

仮に、基準年における排出係数に置き換えて計算した場合、本市の温室効果ガス総排出量は3,998,369kg-CO<sub>2</sub>となり、基準年と比較しておよそ3%削減となります。

- ・重油の使用量の増加。(冬季の気温低下による暖房の使用増加。)

【基準年と比較して減少した要因】

- ・算定対象施設の廃止。
- ・省エネルギーの取組みによる、燃料使用量の減少。
- ・高効率照明などの省エネ機器の導入による燃料使用量の減少。
- ・低燃費車の導入、公用自転車の活用、エコドライブの実践などによる公用車燃料使用量の減少。